

6月29日 ~医療従事者などに感謝の気持ちを~
千種保育所が七夕飾り贈呈



お願い事を書ける短冊も贈呈しました

千種保育所は串間市民病院、市総合保健福祉センターに七夕飾りを贈呈しました。日頃お世話になっている医療従事者などに感謝の気持ちを届けようと毎年実施。市民病院では年中・年長児16人が、全園児の夢や願い事など書かれた短冊が飾られた約3メートルの笹を、江藤敏治院長に贈呈。七夕飾りは4月末から準備を始め、贈呈の当日に完成。短冊には「おしごとおつかれさまです」「たいこがうまくなりますように」など、さまざまな思いが書かれていました。年長クラスの川田尊旺くんは「みんなの病気が早くよくなりますようにと考えながら作った。喜んでもらえてうれしかった」と話していました。

7月8日 夏休みを前に命と環境を守る方法を学習

有明小学校の全校児童は夏休みを前に、高松海水浴場にて海浜学習を行いました。串間土木事務所による海の危険箇所の講話の後、浜に移動。宮崎ライフセービング協会と地元の愛好者らによるライフセービングボード体験、SUP(スタンドアップパドルボード)、と清掃活動の3班に分かれて実施。同協会代表理事の藤田和人さんは「自分たちの住んでいる地域のいい気付き、自分や友人、そして環境を守ることに繋がってほしい」。同事務所の脇山富夫課長は「見た目は安全に見えても危険性が潜んでいるので夏休み前に学ぶことで楽しく安全に海で遊んでほしい」。参加した6年生の内田虎龍くんは「ちゃんと自分の命と地域を守っていききたい。これからは親と一緒に海や川を安全に楽しみたいです」と話していました。



SUPを満喫する児童たち

7月11日 高齢者への理解を深める



疑似体験する児童たち

北方小学校は高齢者疑似体験を体育館で行いました。3年生8人が高齢者の感覚を疑似体験し、体の動かしづらさを理解して心遣いなどを学びました。市社会福祉協議会の職員が講師を担当。児童は手首や足首などに重りや腰を曲げる装具を身に着け、手足が動かしづらい状況に悪戦苦闘しながらも、介助を受けながら体育館内を歩きました。視界が狭くなるゴーグルや耳栓などを着け、視覚や聴覚が限られた状態での字の読み書きなども体験しました。深江美利菜さんは「腰や足が重くて動くのが大変だった。困っているお年寄りがいたら声を掛けて助けてあげたい」と話していました。

6月7日 生涯学習の「さわやか学級」スタート

主に60歳以上の高齢者を対象として、健康や生きがいづくりについて学ぶ「さわやか学級」が今年も始まりました。同学級は市内7カ所で開設されており、今年は約150人が受講します。市中央公民館で行われた福島さわやか学級の開級式には12人が参加。今年度の学習内容の説明や生涯学習専門指導員の紹介などがあった後、串間警察署員が交通安全、特殊詐欺について講話を行い、注意を呼びかけました。最後には、特殊詐欺について説明した高松駐在所に勤務する榎木一成さんが、一瞬にして面が変わる中国の伝統芸「変面」をサプライズ披露。面が変わる度に盛大な拍手が沸き起こっていました。



変面を披露する榎木さん

6月16日 中園サロン会が風力への関心を深める

中園サロン会は、まちづくり協議会「チーム本城」の共催により串間風力発電所の見学を行いました。串間ウインドヒル株式会社の副所長による、風車が出来上がるまでの過程を動画で学んだ後、同所に移動し、大きな風車を前に騒音対策や自動で風向きを感知し方向転換をするセンサーがあること、1号機～23号機までの一つ一つに市内小学生が考えた愛称があることなどを学習。参加者の今江さよさんは「感激した。何年もかかって何万人もの手により作られたことを知りすばらしいと感じた。風車を建てるための厳しい基準から串間市が選ばれたことを知ってうれしい」と話していました。



見学後は都井岬などへ行きました

6月22日 思いやりの心を「人権の花」贈呈

串間市人権啓発推進協議会は、「人権の花」として小中学校など7団体に花の苗計約1050本を贈呈しました。花を育てることで命の大切さを実感し思いやりの心を育んでもらう「人権の花」運動の一環。このうち大平小学校では、串間市人権擁護委員の河野ケイ子さん、黒木和文さんが全校児童3人に、サルビアやマリーゴールドなどの苗計168本を手渡しました。児童を代表し、5年生の長友優雅さんが「大切に育て、他の人を思いやる気持ちを育てていきたい」と感謝の言葉を述べました。その後児童は人権擁護委員と一緒に、校内の花壇の一つ一つ丁寧に苗を植え、学校を彩りました。



児童と一緒に苗を植える人権擁護委員の黒木さん